



2021年3月30日

「MINI Electric Pacesetter inspired by JCW」 - FIA フォーミュラ E セーフティカーとして初の電動 MINI が登場

ミュンヘン発：MINI Electric Pacesetter inspired by JCW（MINI エレクトリック・ペースセッター）は、ABB FIA フォーミュラ E 世界選手権シリーズの新しいセーフティカーである。これにより、ブランドの電動化に向けた未来と John Cooper Works の豊富なモータースポーツの歴史が結び付けられた。この車両は、新型 MINI Cooper SE をベースにして、MINI デザイン、BMW モータースポーツ、FIA、フォーミュラ E のこれまでにないユニークなコラボレーションによって誕生した。

電気駆動と John Cooper Works の遭遇

「ドライビング・プレジャーと電動モビリティがいかにかうまく調和するか、私たちはすでに MINI Electric で証明しています」と MINI ブランドの責任者を務めるベルント・キュルバーは言う。「MINI Electric Pacesetter inspired by JCW では、さらに 1 歩進んで、John Cooper Works ブランドのパフォーマンス特性と電動モビリティが組み合わされました。これは、ABB FIA フォーミュラ E 世界選手権 E シリーズのセーフティカーとして開発されたエクストリーム・バージョンのため、もちろん公道での使用は意図されていません。しかし、この車両を見れば、JCW ブランドの電動化に向けた今後の方向性が分かります。『電動化と John Cooper Works の相性が最高』であることは明白です」。

最高の運動性能 - エクステリア・デザイン

サーキットで使用するためにカスタマイズされた、MINI Electric Pacesetter inspired by JCW のエクステリアは、これまでにないダイナミックな純粋電気駆動 MINI の外観となっている。「このデザインは、技術的な精度と感情の刺激的な共生となっています」と、MINI デザインの責任者であるオリバー・ハイルマーは説明する。「ここでは、機能によって形が決定され、多くのデザイン要素は技術的な理由に基づいています。たとえば、ホイール・アーチやフロント・エプロン、リヤ・エプロンの形状は、BMW モータースポーツのスタッフとの緊密な協力によって開発され、とりわけ、重量の点で最適化されています。そして、まさにこの特徴的で技術的に正確なスタイリングが、車両に強い情感と魅力をもたらしています」。

フロントの円形のヘッドライトや六角形のラジエーター・グリルなど、古典的な MINI のトレードマークが、高い認知度を備えた典型的な MINI フェイスを形成している。同時に、トレッド幅に合わせたホイール・アーチや追加のフロント・スプリッターを備えた、深く張り出したフロント・エプロンなどの特徴的な John Cooper Works のエレメントが、フロントのスポーティな印象を強調している。閉鎖された「ラジエーター・グリル」と MINI Electric のロゴが、セーフティカーの電氣的な「真髄」を表している。グリル上部では従来のようなエンジン冷却がほとんど必要ないため、空力学的な理由によりフロントの大部分が閉鎖された。唯一の例外となるのはグリル下部であり、ブレーキの冷却用にほぼ正方形の特徴的な開口部

がある。セーフティカーの白色の「フロント・フラッシュ・ライト」は、エンジン・フードに調和するように組み込まれている。特徴的なボンネット・ストライプは、ルーフを通過してリヤ・セクションまで続いている。

レーシング・デザインに潜む MINI DNA - サイド

MINI Electric Pacesetter inspired by JCW は、サイドも非常にダイナミックである。意図的に設定されたスポイラー・エッジ付きで明確に強調された形状のスパッツとスポーティなサイド・スカートの相互作用により、静止しているときでも車両の加速が感じられる。ホイール・アーチがほぼ完全に埋まるほど大型化されたホイール直径とともに、それは、典型的な MINI ホイール・スタンスを強化している。「オックスフォード製」のスパッツとスポイラーは、リサイクル・カーボン・ファイバーから 3D プリント技術を用いて製造されている。スパッツ、サイド・シル、リヤ・ウィングなどのエアロ・パーツの黄色のアクセント・ラインとアクセント・サーフェイスは、そこで気流が最適化されていることを示すと同時に、エア・デフレクターとスポイラー・エッジに視覚的なハイライトを施している。ブラックネオン・オレンジのバイカラー・デザインの 18 インチ軽量鍛造ホイールは、MINI John Cooper Works GP の簡潔な 4 スポーク・デザインを、視覚的な奥行きを伴った、より繊細なデザインに解釈し直したものである。

カラー・コンセプトに基づく MINI Electric と John Cooper Works の配色は、共通表現となって融合している。車両のメイン・カラーは、車両中央のやや後方まで広がるマット・シルバーである。そして、ハイスピード・オレンジから真っ赤な色調の「カーブサイド・レッド・メタリック」の 2 段階カラー・グラデーションが高光沢フィルム仕上げでリヤに向かって施されている。車両のマットな表面と光沢のある表面のコントラストによってスムーズなシルエットが生まれ、カラー・エリア間の明確な斜めの分割線がさらなるダイナミズムをもたらしている。車両サイドには、チェッカー・フラッグを模したパターンが大きな MINI Electric のロゴとともに配置されている。このロゴは、フロント・ラジエーター・グリル、ルーフ、リヤにも付いている。また、セーフティカーとして使用されるこの車両には、レギュレーション固有のグラフィックとスポンサーが掲出されており、レーシング特性を視覚的に強調している。

幅広く特徴的 - リヤ

ブラックとカーブサイド・レッド・メタリックのリヤ・セクションは、黄色のアクセント・サーフェイスのフロントおよびサイドの特徴的なスタイリングを引き継ぎ、非常にモダンでダイナミックなデザインとなっている。ルーフに黄色のアクセント・ラインが施された、印象的なエアスルー・リヤ・ウィングにはシグナル・ライト・ユニットが組み込まれている。これも、オックスフォード工場で 3D プリント製造されている。張り出したホイール・アーチは幅広いトレッドを強調し、際立ったリヤ・エプロンにシームレスに融合する。リヤ・エプロンはホイールの周囲でカットされており、グリップ力の高いレーシング・タイヤが見えるようになっている。ホイール間に簡素なディフューザーが配置されている。リヤから見た場合、エナジェティック・イエローのカラー・アクセント、ならびにテールパイプがないことにより、

電気駆動式であることが示唆される。

最大限の削減 – インテリア

インテリアは必要最低限になっており、シートは、フロント・シートのみが装備されている。運転席はレーシング用と公道用の両方で承認された6点式ベルト付き認定シート、ミニマル・デザインのカーボン・ファイバー製インパクト・アブソーバー付きステアリング・ホイール、デジタル・メーター・パネルで構成されている。さらなる軽量化を図るために、センター・インフォメーション・ディスプレイはカーボン・ファイバー製カバーに代わった。センター・コンソールには、ギヤ・セレクター・スイッチ、ハンド・ブレーキ、必要なシグナル・ライトの操作部が組み込まれており、目視可能な表面がすべてカーボン・ファイバーで覆われている。同様に軽量化された、ウインドウ・レギュレーターとドア・オープナーを備えたカーボン・ファイバー製のドア・トリム・パネルには、ドアを容易に閉じることができるファブリック・ストラップが付属する。また、室内空間は溶接されたロール・ケージで構成され、最大限の安全性が確保される。剥き出しになった内部構造の残りの部分も、機能上の理由から、典型的なモータースポーツ・ホイットで塗装されている。

カスタムメイドのインテリア用 3D プリント部品

ミニマリスティック（最小限主義的）なインパクト・アブソーバーとステアリング・ホイールの右側にあるブースト・パネルは、センター・コンソール・カバーや運転席側のドア・トリム・パネルと同様に高品質のカスタムメイド部品である。同じく 3D プリントされた、交換可能なスポーツ・シートのパッドが、もう1つのハイライトとなっている。その革新的な構造により、快適性と堅牢性、モジュール性の組み合わせが実現した。厚さ、硬さ、カラーのカスタマイズが可能であり、それぞれのドライバーの体形、体重、個人的な好みに完全に適合させることができる。

サーキットに最適な BMW モータースポーツのノウハウ

MINI Electric Pacesetter inspired by JCW の印象的なデザインには、BMW モータースポーツのノウハウが隠されている。徹底した軽量構造により、このセーフティカーは量産モデルの MINI Cooper SE と比較して約 130kg の軽量化に成功し、車両重量は約 1230kg になった。MINI Cooper SE をベースにして最適化されたドライブ・システムは 135kW、280Nm を実現する。それにより、MINI Electric Pacesetter inspired by JCW は、6.7 秒で 0-100km/h 加速（量産モデル：7.3 秒）、3.6 秒で 0-60km/h 加速（量産モデル：3.9 秒）を達成する。ただし、セーフティカーの場合は、中間データの方が重要である。ここでは、複数段変速のない高トルクの電気駆動のあらゆる利点が奏功して、4.3 秒で 80-120km/h 加速（量産モデル：4.6 秒）の性能を発揮する。

ドライブ・システムとともに、伸び側、圧側、高さ、キャンバーを 3 方向に調整可能なレーシング仕様の

コイルオーバー・サスペンションにより、最高のゴーカート・フィーリングが実現する。レーシング仕様のサスペンション・アーム接続、+10mmのトレッド幅拡大、4ピストン・ブレーキ・システム、MINI John Cooper Works GPのホイール、MICHELINパイロット・スポーツ・タイヤ（サイズ245/40R18）がトータル・パッケージで装備される。同じタイヤは、フォーミュラEレーシングカーのフロント・ホイールにも装着されている。

2021年4月10日、ローマE-Prix 2021で初登場

MINI Electric Pacesetterは、現在開催中のフォーミュラE 2021シーズンの、2021年4月10日にローマで行われる2番目のフォーミュラEイベントで初めて投入される。フォーミュラEの公式FIAセーフティカー・ドライバーを務めるブルーノ・コレイアがステアリングを握る。「敏捷性、パフォーマンスに優れ、スタイリッシュな見た目のクルマです。FIAフォーミュラE世界選手権用のMINI Electric Pacesetterセーフティカーには、すべてがそろっています。ドライビングはとても楽しく、ゴーカート・フィーリングを味わうことができます」。このように、コレイアはMINI Electric Pacesetterについて述べた。

サーキットでは、BMW iアンドレッティ・モータースポーツのマキシミリアン・ギュンター（ドイツ）とジェイク・デニス（英国）の2人のドライバーがBMW iFE.21でフォーミュラEでの勝利を目指して戦う予定である。

本件に関する読者および視聴者からのお問い合わせ先:

MINI カスタマー・インタラクショントラック・センター

フリーダイヤル 0120-3298-14

受付時間: 平日 9:00-19:00、土日祝 9:00-18:00

MINI ウェブサイト: <http://www.mini.jp>